

概要

「えひめの環境活動応援セミナー」



～地域のなかで企業やNPO等とともに～を開催しました。

(日時:平成27年2月17日(火) 場所:にぎたつ会館)

企業やNPO等の環境活動団体、市町など、様々な主体が一同に会して、講演やパネルディスカッションに参加。企業やNPO、行政などがそれぞれの立場から、地域の課題解決のため、協力してできることを考えました。少しでもその内容をみなさまへお伝えします！



【基調講演から】

テーマ:地域での課題解決のために

～CSRを基軸に企業やNPOの活動と協働～

講師:京都CSR推進協議会会長 明致 親吾さん

社会課題解決のためには、行政だけでなく、市民やNPO、団体、企業など多様な主体が、役割を分担し、社会事業を担う時代になっている。では、企業の役割や取組み、CSRを考えるとどうか。

CSR(Corporate Social Responsibility)は「企業の社会的責任と直訳されるが、取組みは大企業が中心。なぜ中小企業には、CSRが十分に広がっているといえないのか。大企業では推進する組織も人も資金もあるけれど、中小企業はそうではない。でも小さな企業ならではの取組み方があると思う。

CSRのR、Responsibilityを「信頼」と訳して、「企業の社会的信頼」としてはどうか。

「信頼」と考えると、京都に多くある老舗企業でも受け入れやすいようだ。CSRを、企業の関係先と信頼を築く経営と捉えて取り組んではどうだろう。

地域の課題解決に本業を通じた活動を織り込んで、関係先や地域との信頼を築いてゆけば、その活動が、ひいては、企業の業績や収益にもつながる。「得」するCSRであり、「徳」ともなるのではないか。

また、NPOのミッションと、企業のCSRとは相通じるものがある。企業とNPOが協働することは、双方の得意分野を活用でき有効な手段となるだろう。協働に至るには、じっくり対話することが必要となるが、NPOが企業に協働を提案する際には、企業の本業をよく研究し、提案することが肝要であり、成功への近道となるだろう。

【パネルディスカッションから】

テーマ:環境活動～地域のなかで私達のできること～

コーディネーター:NPO法人えひめリソ-スセンター理事長 泉谷 昇さん



各パネリストの事例紹介から熱心な質疑が行われました!

◆パネリスト

プロジェクト地球っ子ひろば 代表 射手 建雄さん

耕作放棄地を再生した体験農場で、子供達に農作物の栽培から収穫までの体験を通じ、生命のつながりや自然のしくみを考えてもらう活動を実施。今年度は、地域の農家やイオン新居浜チアーズクラブとの協働事業。射手さん側は、プログラム面でのサポートやフィールドの提供などの面で、イオン側は、参加者の確保や運営スタッフの面で相互に協力しました。

◆パネリスト

京都CSR推進協議会会長 明致 親吾さん

中小企業や小規模事業者のCSRの取組みを促進・支援することを目的に、京都の経済団体や中間支援組織、行政が協力して、2011年4月に発足した団体。協議会では、CSRを「企業が社会の『信頼』を得る取組み」と捉え、自社の取組みレポートの作成過程を通じた具体的な支援や、ウェブサイトでのCSRに関するさまざまな情報提供、セミナーや講演会を実施。

◆パネリスト

ロイヤルアイゼン株式会社 代表取締役副社長 姜 公佑さん

スーパーで発生する食品残さなどを原料に堆肥を製造。県中予地区のフジ、地域の農家と協力し、製造した堆肥を使って地域の農家が生産した野菜を、フジ各店で販売する食のリサイクルグループを実現(風早有機の里づくり推進協議会事務局)ここに至るには、地域方々の協力なくしては考えられないとの熱いコメントも。

また会場内には、行政やNPOとの連携のため活動している四国EPO(四国パートナーシップオフィス)さん提供によるESD(持続可能な開発のための教育)に関するパネル展示や、株式会社アドバンテックさんによる、企業のCSRの一環として取り組んでいる、西条小学校こどもエコクラブのサポート活動紹介のパネル展示をいただきました。

セミナーをふりかえって

NPOや企業との協働

「パネルディスカッション」コーディネーター NPO法人えひめリソースセンター理事長 泉谷 昇

基調講演から



今回の「えひめの環境活動応援セミナー」の前に、友人から「CSRに興味はあるけど、仕事が忙しくて参加するか迷っている…」という相談がありました。私は「講演やパネルディスカッションで具体的な事例紹介もあるから参考になるはず、待っています！」と呼びかけました。

この「CSRに興味はあるけど、仕事が忙しくて」という言葉には「事業とCSRは別モノ」と感じ、ここがCSRの課題と感じたまま、明致さんの講演を拝聴しました。そして3つのキーワードが大切だと思いました。

3つのキーワード

3つのキーワードとは「CSR(企業の社会的責任)」「協働」「アウトカム(創出された価値)」です。

1つ目は「CSR(企業の社会的責任)」。

CSRとは、地域で活動する企業が果たすべき役割です。と、真っ正面から意義を書くと敬遠されがちなのが「CSR(企業の社会的責任)」です。そして、何か手間や面倒という印象があるのが現在のCSRでもあります。それはなぜか？それはCSRの「和訳」にあると思います。CSRとはCorporate Social Responsibilityの頭文字をとった略称で、「Responsibility」という和訳が「責任」という意味なので、企業にとって「責任を負わされる」と感じ取られても仕方ありません。

しかし、明致さんの講演では「Responsibility」を「責任」ではなく「信頼」と訳していました。辞書などを調べると、責任という意味以外に信頼も掲載されていたことに驚き、共感したのは私だけではないでしょう。「企業の社会的信頼」と表現することで、企業と地域は「責任」ではなく「信頼」で繋がっていることを気づかせてくれました。

2つ目は「協働」です。

企業がCSRに取組みたい、取り組もうと思った時、自社単独だけでは効果や成果は限定的になる可能性があります。そこで効果的な手段として「協働」があります。えひめリソースセンターでは協働を「共通の目的を果たすために、多様な組織が互いの資源を持ち寄り、対等な立場で協力し働くこと」と定義しています。

ポイントは「多様な組織が互いに資源を持ち寄り、対等な立場で」という所で、専門・得意分野で連携しあうことです。互いに過不足を補完しあい目的を達成することは、不透明感、不確実性が増す今後において、一つの対応策と考えています。

3つ目は「アウトカム(創出された価値)」です。

協働に取り組んでも効果や成果が予測よりもない場合があります、その時は下記の3点を確認してみてください。

- ① 協働自体が目的になっていなかったか？
- ② 達成する目的は共有されていたか？
- ③ 創出する価値は共有されていたか？

協働は「目的ではなく手段」なので、大切なのは「協働によって創出された価値(アウトカム)」です。ここで言うアウトカムには「受益者」がいます。事業は人へ行うものなのであり、どんな人へどれほどの価値を提供できるか？協働の前に関係者と確認されることをおすすめします。

CSRや協働は「本事業とは別モノ」ではありません。本事業にCSRや協働を組み込むことは可能です。事業に取り組むことで地域と共に持続でき、成長もできると思います。

講演に出席してくれた友人から「とても参考になった、周りとの情報を共有する」と返信がありました。こうして、一人一人が「CSR」や「協働」について考え、職場などに持ち帰って考える。明致さんの経験談やCSRの意義などを知った一人一人が働く場や企業などです。今回のセミナーが愛媛県にとってCSR促進の一助になると確信しました。

パネルディスカッションから

基調講演に続き行った「パネルディスカッション」で、想像していた内容よりも濃い意見交換ができました。基調講演の講師に引続き京都CSR推進協議会会長の明致親吾さん、ロイヤルアイゼン株式会社代表取締役副社長姜公佑さん、プロジェクト地球っ子ひろば代表選手建雄さんの3名から活動紹介、事例紹介をいただきました。

明致さんからは京都で取組まれている内容を先進事例として紹介いただき、姜さんからは自らが地域の生産者と取組まれている事例を協働の視点から紹介いただき、選手さんからはNPOの立場から見た企業との協働について事例を紹介いただきました。

「想像していた内容よりも濃い意見交換」と言うのは、紹介後のパネルディスカッションで、会場からの多数の質問が出たことで、参加者がより深く知ることができたことです。例えば、京都CSR推進協議会からは、「企業のCSR導入は研修などに参加することで、自社でもきっかけづくりができる」と、質問から導きだせたり、ロイヤルアイゼンさんからは、「事業実施前の生産者、地元住民との意見交換で信頼し合える仲になるのが大事だった」と、質問から得ることができました。プロジェクト地球っ子ひろばさんは、「いきなりの協力ではなく最初の接点は小さかったものの、実績と信頼を重ねて徐々に接点が大きくなり、現在に至っている」と質問から分かりました。

ロイヤルアイゼンさんへの質問が特に多かったのは、CSRに興味関心がある参加者が多かったからと推察しています。単なる事業、活動紹介だけでは得られない深い部分が質問から得られたことは、大きな成果だったと思います。このような企業側、NPO側からの取組紹介が今後も行えると、CSRや協働は浸透、促進すると感じました。

これからCSRや協働について検討を始められる時は、えひめリソースセンターが相談・協力に応じますので、お気軽にお声がけください。

